

輪島、ここから。



Concept

元日に起きた能登半島地震により被災した石川県輪島市。そこには石川県の伝統芸能である輪島塗の工房があった。しかし、地震によってその工房が倒壊し、途端に輪島塗自体の存在が消えかけ始めている。

そこで我々はGLを原点と定義し、輪島塗のリスタートとする。この建築を原点として輪島塗を守り、新たに発信していく文化施設を設計する。輪島塗りの特徴や魅力を建築に落とし込み、この伝統芸能を観光を通して日本人だけではなく世界の人も知って頂けるような、輪島塗の原点となるような施設を提案する。

敷地

石川県輪島市に位置する輪島市役所前の三角形の敷地に設定する。両サイドが川に囲まれているため、輪島を一望することができる。

この敷地から見ることができる景色は主に三つに分けることができる。右側は主に地震で被災したエリアである。被災してから復興してゆく町の景色の移ろいを眺めることができる。

左側は住宅や山の景色が広がっており、輪島の日常を感じることができる。後ろ側は沢山の人が利用する輪島市役所が見える。人通りも比較的多い敷地のため、輪島塗を発信して行くには適した場所である。

人々の生活、
自然



被災地

敷地

輪島市役所

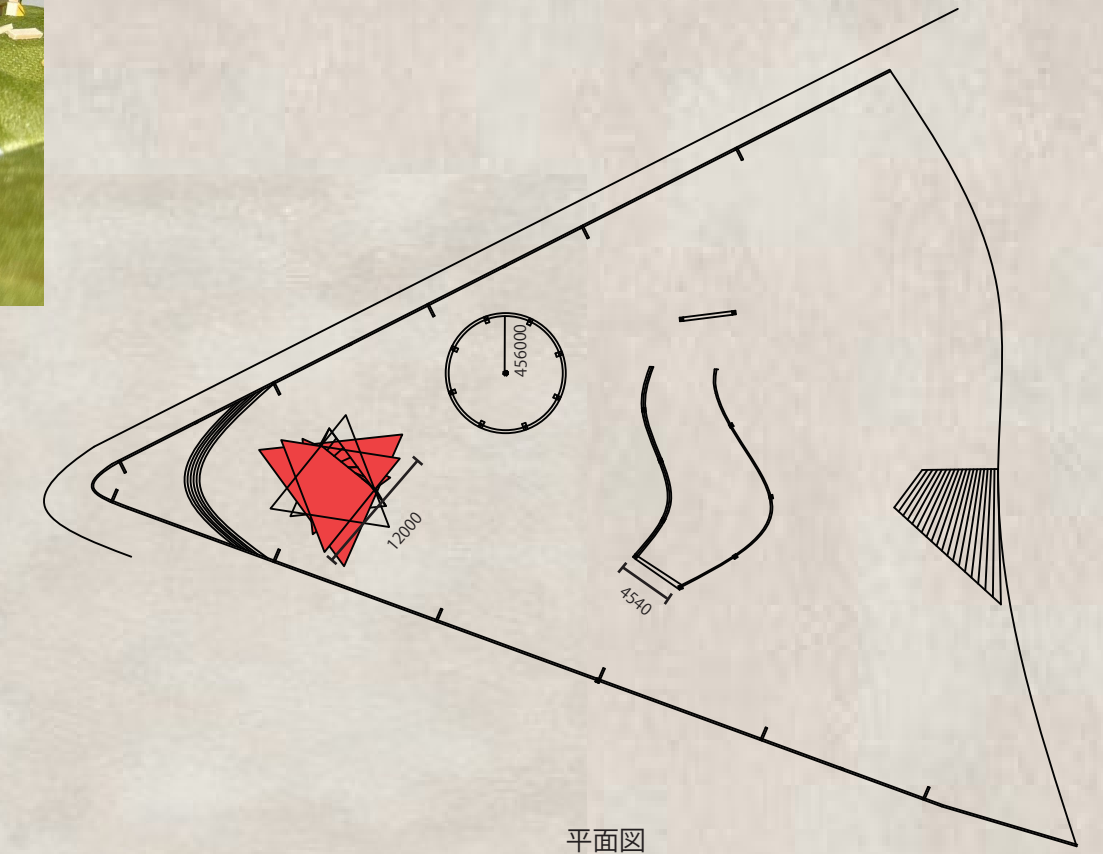
災害の現状

1月1日午後4時10分頃、石川県能登地方を震源とする地震があり、多くの場所で震度6, 7を観測した。241人の死亡が確認されており、避難者は1万3513人に上っている。特に被害が大きかったのは輪島市である。中心部では朝市通りで大規模な火災が発生し、燃焼範囲が4万8000平方メートルにも及んだ。その結果約300棟が影響を受けたと推定される。その中に位置していた12社の輪島塗事務所が燃焼し、ほぼすべての職人が被害を受け生産再開の見通しが建てられず、輪島塗の存続が危ぶまれているのが現状である。

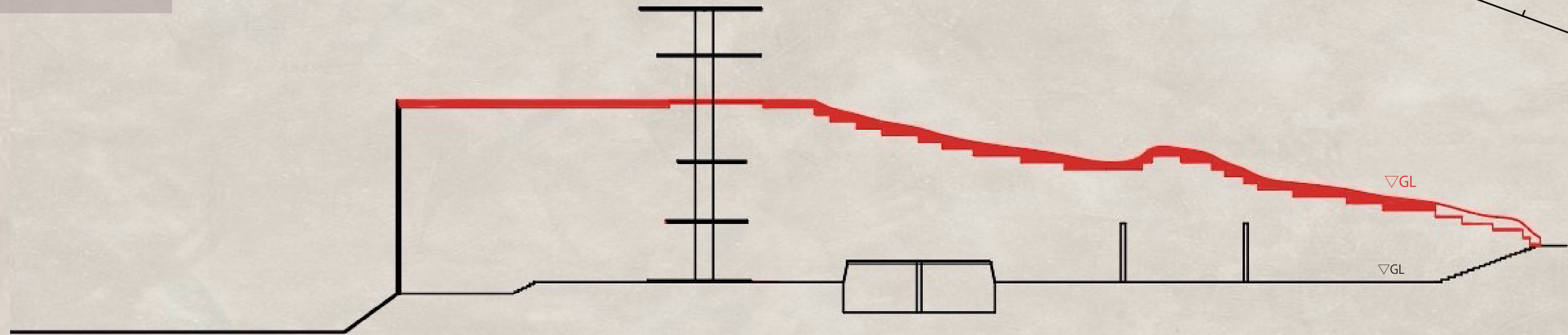
新たな GL によって生まれる 豊かな空間、明るい未来

三角の敷地にゆるい傾斜の丘を作り、新たな GL を生み出す。

新たな GL は輪島を見渡すことができる広場になっており、そこで人々は自由に過ごす。自由に過ごすことができる豊かな空間は、丘が上へと上って行くように、石川県の明るい未来を表現している。



平面図



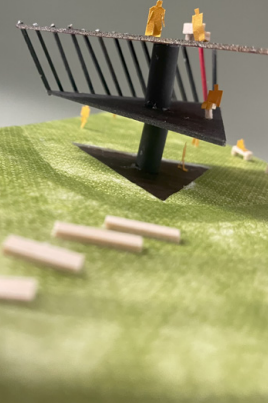
輪島塗を 考える。体験する。発信する。



丘のふもとの入口から3m下がる GL は輪島塗について深める空間となっている。



そして、下から突き抜けている建物は体験やショップが入っており、輪島塗についての理解をまとめる空間となっている。



最後に、新たな GL に降り立った時、輪島塗が生まれた土地を見つめ、それを発信していく準備が整う。



ガラス断面：高さ最高12mのガラス壁。展示室から抜けた先に現れる巨大なガラスは輪島塗の文化を消滅させることなく新たに成長して行くさまを思わせてくれる。



人の動線を確保しつつ休憩用のベンチともなる



丘から内部空間まで貫く多目的施設。一階部分はピロティとなっており人々の通路となっている。二階部分は輪島塗の体験室となっている。これは実際に柄などを書いて輪島塗の魅力を体験してもらうことが目的である。三階部分はショップとなっている。四階部分は展望スペース、5階部分は展望レストランを設置した。